

# お茶大アクティブ・ラーニングスタジオについて

桑名 杏奈\*1・廣田 知子\*1・當間 亜紀子\*1・池田 佳奈子\*2  
Email: kuwana.anna@ocha.ac.jp

\*1: お茶の水女子大学 情報基盤センター

\*2: お茶の水女子大学 理学専攻

◎Key Words アクティブ・ラーニング, 情報教育, 学修支援

## 1. はじめに

2014 年度、お茶の水女子大学では「主体的に実践・行動する経験を生み出すための環境整備」を目的として、アクティブ・ラーニングスタジオ (Active Learning Studio, 以下 ALS) を構築した。学部生が一般教養の講義を受けることの多い共通講義棟 1 号館の 1 階、学生が多く集まる附属図書館の近く、南門から図書館・食堂等への動線上という地の利のうえに、解放感のあるガラス張りの壁を採用し (図 1)、学生が気軽に使える施設を目指している。



図1 ALS外観

ALS の空間のコンセプトとして「IT を活用した学生の主体的なグループによるプロジェクトマネジメント型学修用スペース」「異なる研究分野の学生グループが集まるコミュニティスペース」を謳っており、無線 LAN 環境や電源など、持ち込みのノート PC やタブレット端末の利用を支える基盤、電子白板や無線対応プレゼンテーション用機器などの議論やコミュニケーションを活性化させる IT 機器、移動可能な机などの什器、多様なコミュニケーション形態に対応し得る機器など、学修をサポートする設備が揃えられている (図 2)。

本文書では ALS の利用例の一つとして、2015 年 4 月から 5 月上旬に行われたセミナー (通称 ALS セミナー) を紹介する。ALS の、人数不定の講習会にも対応できる移動可能な机や、PC 実習を支える基盤を大いに享受した一例である。

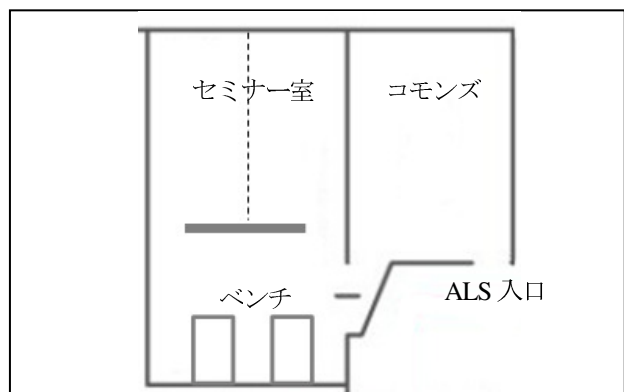
## 2. ALS セミナー

### 2.1 背景

本学では情報リテラシー教育と情報スキルの向上に力を入れており、学部学科等の専門性によらず管理者として自分専用のノートパソコン (以下、マイパソコ

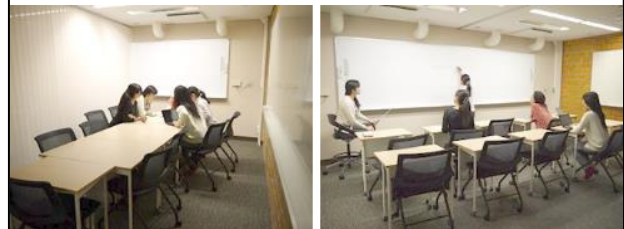
ン) を持つことを新入生に推奨している。

コンピュータやスマートデバイス、LAN 環境の普及により、現在の学生にとって IT 機器やインターネットを使うことは日常のことになっている。ユーザインタフェースも進化しており、特別な知識がなくても気軽



セミナー室：

仕切りを外すと 24 名までのセミナーが可能



ベンチ：少人数での打ち合わせ等に最適



コモンズ：少人数から 20 名までの集まりに対応

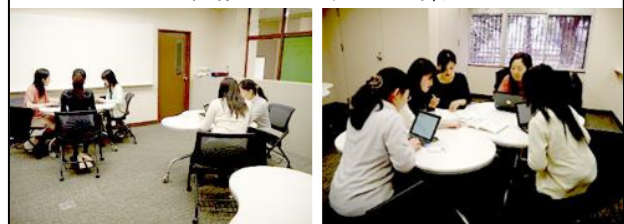


図2 ALS の設備

にサービスを利用できる。反面、機器の仕組みやセキュリティに関する知識がないまま無防備にネットワークを利用した結果、危険なコンピュータウイルスやインターネット利用詐欺等のトラブルに遭う事例も増加している。

情報基盤センター内「パソコン相談担当」では、コンピュータの管理に不慣れな新入生の支援を行っている。昨年度の2014PC Conferenceでは中長期貸出パソコン、セキュリティ入門講習、セキュリティ対策ソフトのインストール支援などの活動内容を報告した<sup>(1)</sup>。

新入生向けには学部入学時にマイパソコン購入の案内を行っているが、同時に、学内では様々な貸与プログラムも用意されている<sup>(2)</sup>。前述のパソコン相談担当では、1年生を主な対象として最大1年間ノートパソコンを貸与している。附属図書館では、図書館内で自由に利用できるノートパソコン（通称ロッカーパソコン）を用意している。情報基盤センターでは半年単位（延長可）で、パソコンを管理するための基礎的な知識を既に会得した上級生（2年生以上・大学院生）を想定し、セキュリティ対策等含め管理は学生自身が行うノートパソコンを貸与している。

2013年度末をもって、長年附属図書館ラーニング・コモンズで、ITに関する支援を行ってきたLA制度<sup>(3)</sup>が終了し、論文やレポートの書き方の相談にも対応できるよう、よりアカデミックなサポート人員（Library Academic Learning Adviser、通称LALA）に移行した。学生のITに関する知識レベルは幅広く、サポートとして求めるレベルも様々である。結果として、求められるサポートの種類は年々広がっている。今後はより少人数の講習会や、個別の質問対応などのサポート・サービスが求められると考えられる。そのためには、ALSのような柔軟な設備をもった施設が不可欠である。

## 2.2 内容

情報基盤センター パソコン相談担当が2015年4月から5月にかけて学部1年生向けに、以下3つのセミナー・講習会を行った。

まず「セキュリティ入門講習」として、昼休みに30分間の座学を行った。セキュリティ対策の重要性や、具体的にどんなことを行うのか、どんなことに気を付けるのかなどについて説くもので、全学部1年生全員に受講を推奨している。定員は各回20人程度を予定していたが、定員を超える回もあり、急遽席を増やしたり、翌日以降に予約を取ってもらったりして対応した。

次に「ウイルス対策ソフトのインストール支援」では、大学で契約しているウイルス対策ソフトをマイパソコンにインストールできる。入門講習の受講者の中から、希望者に対してのみ行われる。夕方（講義後）45分×4コマの実習が用意されており、受講者はマイパソコンを持参してセミナーを受ける。定員は各回10人程度であった。

さらに「パソコン貸与プログラム」として、希望者に対してノートパソコンの貸与を行う。ハードウェアやスペックの簡単な説明、パソコンに不慣れな学生に対しては電源の入切から基本的な操作方法まで説明する。基本的に個別対応が行われた。

以上、いずれも正規の講義とは別の時間帯に開催されているにも関わらず、セキュリティ入門講習は369名（全1年生499名の約74%）、ウイルス対策ソフトのインストール支援は313名（約63%）と、多くの1年生が受講した。パソコン貸与プログラムの希望者は、5月末日時点で39名、6月以降は2年生以上の希望者にも貸与を始めている。なお、マイパソコン持参でウイルス対策ソフトのインストール支援を受けた313名のうち、Windows持参が104名、Mac持参が209名であり、Macが約2倍であった。WindowsとMacの比率がほぼ1:1だった昨年度に比べて、Mac購入者の大幅な増加が興味深い（昨年度のデータは、講習会後自己申告のアンケートによる。Mac131名、Windows120名、OS不明19名）。

## 2.3 本セミナーにおけるALSのメリット

「セキュリティ入門講習」では、当初20人程度の定員を予定していたが、予想より受講希望者が多く、急遽机を詰めて定員を増やすことができた。

夕方は「ウイルス対策ソフトのインストール支援」と「パソコン貸与プログラム」が同時に行われたが、移動可能な設備を利用して空間を区切ることで、ひとつの部屋の中でまったく別のセミナーを効率よく行うことができた。

パソコンを持ち込んでのセミナーの開催にあたり、電源やLAN環境など、ノートパソコンを使うための設備が必須であったことはいうまでもない。

## 3. おわりに

今回のALSセミナーでは利用されなかったが、無線対応プレゼンテーション用機器「wivia（ワイビア）」、電子情報ボードシステム「Deldea（デルディア）」（いずれも株式会社内田洋行製）、授業配信システム「ArgosView（アルゴスビュー）」（ヴェイ・インターネットオペレーションズ株式会社製、導入支援はソフト・オン・ネット ジャパン株式会社）等、ALSに導入されたIT機器の活用が今後期待される。常駐の管理者が部屋の傍にいないことによる、機器や設備のメンテナンスや利用支援、トラブル対応への不安が現在の課題である。サポートのための人員の不足は、どこでも共通の課題であると考えられるが、限られた物的・人的リソースを有効に活用し、最大限のサービスを提供したい。

### 参考文献

- (1) 池田佳奈子、當間亜紀子、廣田知子、桑名杏奈、「アカデミック・スキルズにかかる学習支援の実践報告」、2014PC Conference, (2014)
- (2) 笹倉理子、浅本紀子、「学生に対するパソコン貸出サービスについて」お茶の水女子大学教育機構紀要『高等教育と学生支援』, 3, pp.84-89, (2013)
- (3) 池田佳奈子、當間亜紀子、桑名杏奈、「ラーニング・コモンズにおける学生支援（3）：ラーニング・アドバイザー制度の概観」、お茶の水女子大学教育機構紀要『高等教育と学生支援』, 4, pp.50-53, (2014)